



あんがいおまる一座上演の「大阪希望館」の舞台

あんがいおまるさんが「大阪希望館」の舞台にこめる思いは?

やはり平和。戦争はダメ、という思いを伝えた。一人の浮浪者の役を演じた40代の女性がいて、彼女のせりふは「戦争はいやや!」といった一言だけだったので、彼女はそのせりふを家で何回も何回も練習しているうちに、本気で

が、夏になるとやりたくなる作品で、2回前からミュージカル形式を取り入れて来年の公演で3回目です。

まるさんが「大阪希望館」の舞台にこめる思いは?

芝居として出発しました。大阪弁のお芝居だし、もうどもど誰でも参加できる「びくらぐとんぼ一座」という市民劇団のお芝居として出発しました。大坂弁のお芝居だし、どちらでも参加していた

「大阪希望館」は出演者を募集して、素人の方も出演されます。

「大阪希望館」は芝居として出発しました。大坂弁のお芝居だし、どちらでも参加していた

芝居として出発しました。大坂弁のお芝居だし、どちらでも参加していた

芝居として出発しました。大坂弁のお芝居だし、どちらでも参加していた

芝居として出発しました。大坂弁のお芝居だし、どちらでも参加していた

芝居として出発しました。大坂弁のお芝居だし、どちらでも参加していた

4月

あんがいおまるさんインタビュー

「大阪希望館」はあんがいおまる一座のいわば「おはこ」となっています。

「大阪希望館」は、12年前の初演から80回以上演じてきました。私は参加していた異業種交流会で「お芝居をしたいね」という話になったのがきっかけで、松竹の映画監督だった故・田中徳三さんに演出をしていました。10年目に原作者の難波利三先生に演出をしていたとき、一応の区切りにしたのです。

「大阪希望館」は、社長も障害者も同じで、下の関係はありません。舞台では一般社会と違って上

に大切にされて、大人なりになったというのであります。そのときの舞台では

彼女の演技が光っていました。平和を訴える手段は多様で、それぞれのやり

ふは削ります」と言うところまで取り組めばいいと思

いますが、私は舞台を作ることで訴えて、いかたい

ことや、何かを得ることができると思いま

れません。「ちゃんと発音できないなら、そのせり

ふは削ります」と言える練習してちゃんとと言えるようになりました。舞台では一般社会と違って上

に大切にされて、大人なりになったというのであります。そのときの舞台では

4月の公演に向けての稽古もスタートしたよ

うですね。

お芝居を観に来ていただきたいのはもちろん

ですが、出来れば「役者」として参加していただきたい。「大阪希望館」は舞台を作っていく過程が大切な作品です。「戦争」を学び、仲間と出会う。

私はあまり好きな言葉ではないが、「自分探し」にもつながります。一度は挑戦してみる価値があると思います。

「大阪希望館」を上演